

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月12日

【四半期会計期間】 第38期第3四半期(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第3四半期 連結累計期間	第38期 第3四半期 連結累計期間	第37期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	12,898,260	12,845,430	17,272,601
経常利益 (千円)	288,535	481,743	424,254
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	349,472	287,237	375,213
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	356,387	291,959	384,922
純資産額 (千円)	5,747,161	6,066,759	5,775,020
総資産額 (千円)	14,455,440	14,011,383	14,080,823
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	16.34	13.43	17.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	39.8	43.3	41.0

回次	第37期 第3四半期 連結会計期間	第38期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.09	2.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府による経済政策や金融緩和政策を背景とした企業収益改善や雇用情勢の改善がみられるものの、米国の金融政策が正常化に向かう中、中国をはじめとした海外経済の減速懸念等、わが国の景気を下押しするリスクもあり、先行きの見通しは依然として不透明な状況が続いております。

外食市場は、原材料価格の高騰及び人手不足のトレンドが続いていることもあり、依然として厳しい競争状態にあります。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

また、成長戦略を実現するために、既存店舗の大規模改装に積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高128億45百万円（対前年同期比0.4%減）、営業利益4億99百万円（対前年同期比16.7%増）、経常利益4億81百万円（対前年同期比67.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億87百万円（対前年同期比17.8%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は195店舗であります。内訳は直営156店舗、暖簾6店舗、FC33店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「がぶりっ！BBQフェア」、「アイルー村のご馳走フェア」、「直火焼きステーキ丼フェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや「韓国チゲ」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は110億56百万円（対前年同期比0.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は7億93百万円（対前年同期比14.3%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営20店舗、暖簾1店舗、FC2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「黒毛和牛 稀少部位食べ比べフェア」、「行楽焼肉フェア」、「ホルモン食べ比べ祭」、「牛一頭食べつくし祭」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアや「大人の抹茶スイーツ」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は15億45百万円（対前年同期比2.2%減）となり、セグメント利益（営業利益）は1億53百万円（対前年同期比11.4%減）となりました。

その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営3店舗、暖簾1店舗、FC6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」、「AGRICO(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は2億43百万円(対前年同期比22.5%減)となり、セグメント利益(営業利益)は16百万円(前年同期はセグメント損失7百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ69百万円減少し、140億11百万円となりました。これは、借入金の返済等による現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ3億61百万円減少し、79億44百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ2億91百万円増加し、60億66百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 115,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,236,000	21,236	
単元未満株式	普通株式 153,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,236	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式616株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	115,000		115,000	0.54
計		115,000		115,000	0.54

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 (管理本部長)	常務取締役 (財務経理部長)	安部 一夫	平成27年8月1日
取締役 (開発本部長)	取締役 (総務人事部長)	本多 英明	平成27年8月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,356,412	2,023,331
受取手形及び売掛金	336,222	353,140
商品及び製品	134,071	197,311
仕掛品	1,235	1,207
原材料及び貯蔵品	560,924	630,230
前払費用	198,917	203,889
繰延税金資産	86,055	51,064
その他	47,250	59,493
流動資産合計	3,721,089	3,519,669
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,128,890	2,340,583
機械装置及び運搬具（純額）	39,872	62,641
工具、器具及び備品（純額）	155,286	181,434
土地	4,984,367	4,984,367
リース資産（純額）	155,636	146,286
建設仮勘定		5,258
有形固定資産合計	7,464,053	7,720,572
無形固定資産	102,954	113,565
投資その他の資産		
投資有価証券	96,951	103,905
長期貸付金	826,480	752,069
長期前払費用	23,057	17,791
繰延税金資産	76,793	72,348
敷金及び保証金	2,453,313	2,382,615
その他	51,411	63,579
貸倒引当金	735,280	734,732
投資その他の資産合計	2,792,725	2,657,576
固定資産合計	10,359,733	10,491,714
資産合計	14,080,823	14,011,383

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	497,604	762,098
短期借入金	862,172	517,900
リース債務	47,067	48,140
割賦未払金	77,080	111,087
未払金	231,306	304,781
設備関係未払金	25,207	40,398
未払費用	479,018	490,887
未払法人税等	180,892	48,326
未払消費税等	212,562	83,748
賞与引当金	85,450	49,240
転貸損失引当金	13,297	7,537
その他	464,370	403,491
流動負債合計	3,176,029	2,867,638
固定負債		
長期借入金	4,115,000	3,969,691
リース債務	126,910	113,395
長期割賦未払金	206,738	306,356
繰延税金負債	119,293	110,923
役員退職慰労引当金	298,404	316,133
転貸損失引当金	55,518	45,037
退職給付に係る負債	134,872	137,992
その他	73,034	77,454
固定負債合計	5,129,772	5,076,985
負債合計	8,305,802	7,944,624
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	118,258	405,495
自己株式	68,830	69,051
株主資本合計	5,769,074	6,056,091
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	5,946	10,668
その他の包括利益累計額合計	5,946	10,668
純資産合計	5,775,020	6,066,759
負債純資産合計	14,080,823	14,011,383

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	12,898,260	12,845,430
売上原価	4,608,552	4,641,942
売上総利益	8,289,707	8,203,487
販売費及び一般管理費	7,861,774	7,704,058
営業利益	427,933	499,429
営業外収益		
受取利息	23,483	22,148
受取配当金	1,784	1,796
受取地代家賃	7,817	7,700
貸倒引当金戻入額	512	548
その他	33,373	26,324
営業外収益合計	66,970	58,518
営業外費用		
支払利息	94,417	69,523
支払手数料	100,000	
その他	11,951	6,679
営業外費用合計	206,368	76,203
経常利益	288,535	481,743
特別利益		
固定資産売却益	15,026	1,050
投資有価証券売却益	1	112
転貸損失引当金戻入額		8,189
受取保険金	3,924	216
債務免除益	361,663	
特別利益合計	380,616	9,567
特別損失		
固定資産売却損	2,593	
固定資産除却損	4,251	14,084
減損損失	21,858	5,202
賃貸借契約解約損	8,514	2,222
特別損失合計	37,217	21,508
税金等調整前四半期純利益	631,934	469,802
法人税、住民税及び事業税	249,188	153,729
法人税等調整額	33,273	28,834
法人税等合計	282,461	182,564
四半期純利益	349,472	287,237
親会社株主に帰属する四半期純利益	349,472	287,237

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	349,472	287,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,914	4,721
その他の包括利益合計	6,914	4,721
四半期包括利益	356,387	291,959
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	356,387	291,959

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
(会計方針の変更) 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
減価償却費	301,008千円	333,005千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	11,004,378	1,579,731	314,150	12,898,260	12,898,260		12,898,260
セグメント間の内部売上 高又は振替高							
計	11,004,378	1,579,731	314,150	12,898,260	12,898,260		12,898,260
セグメント利益又は 損失()	694,242	172,813	7,423	859,631	859,631	431,698	427,933

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては21,858千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	11,056,302	1,545,751	243,376	12,845,430	12,845,430		12,845,430
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	11,056,302	1,545,751	243,376	12,845,430	12,845,430		12,845,430
セグメント利益	793,671	153,029	16,047	962,749	962,749	463,320	499,429

(注)1. セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては5,202千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	16円34銭	13円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	349,472	287,237
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	349,472	287,237
普通株式の期中平均株式数(株)	21,390,975	21,388,833

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月10日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	木 村 直 人	印
業務執行社員	公認会計士	入 澤 雄 太	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。